

# 蜷塚公園のご案内



しみつかこうえん  
『蜷塚公園』



この公園の中には、国指定の史跡「蜷塚遺跡」と「浜松市博物館」がある。  
蜷塚遺跡には、静岡県唯一の縄文貝塚がある。その貝塚の貝がほとんど蜷だったので、古くからこの辺りは「蜷塚」と言われてきた。

## 蜷塚遺跡



蜷塚遺跡は、縄文時代の終わりごろ（約3000～4000年前）の、木の実の採集や狩・漁によって食料を得ていた時代のむらの跡である。  
このむらは、周辺に4か所の貝塚があり、20数軒の家の跡や30か所ほどの墓が発見されている。また、むらの中央部は広場になっていた。このむらは約1000年間にわたって断続的に営まれていた。むらの規模は、家が3～5軒程度、人口は20人前後であったようだ。

## 貝塚



この遺跡には、貝塚が4つある。「第1貝塚」は、集落跡の北の小さい谷を埋めるように、東西40m、南北15m、約600㎡の範囲に貝塚が広がっている。貝の量はおよそ400㎡くらいあると思われる、ヤマトシジミが約90%を占めている。  
貝塚からは、貝殻のほか動物や魚の骨、土器のかけら、石・骨・角で作った道具などが発見された。貝塚は、大昔のごみ捨て場だったようだ。その貝塚は、私たちに大昔の人々の生活の様子を教えてくれる。

## 縄文時代の家(復元)



発掘した柱穴や囲炉裏の跡から推定して、今から4000年前の建物を再現した。ここの建物は竪穴式ではなく、平地式だった。家屋の中央には、炉（ろ）があり、そこで煮炊きをしていた。  
中に入って、自分の家の様子と比べてみよう。今では、台所・居間・寝室等の部屋に分かれているが…。当時の生活の様子を想像してみよう。

## 江戸時代の家



この家は、村櫛町で漁業・農業を営んできた高山さんの家として使われていたもので、1980年に蜷塚公園に移築した。江戸時代の安政（西暦1854～1860年）のころに、今の舘山寺町から古い家を買って移築したと言われているので、200年以上たっていると考えられる。  
この家は、江戸時代の終わりごろの浜名湖東岸では標準的な家だった。屋内は、右手が土間、左手が前後2室の床部分になっており、四間（よつま）取り（田の字形）成立以前の形をとどめている。

